



ふくおか【Good👍】農業人100
 主な農産物／トマト、米

日高 和敏さん (30歳) (営農地／中間市下大隈)

収量の向上を目指すトマト職人

《就農のきっかけ》

田んぼを活かしたい

高校卒業後、農機具会社に就職をしていた日高さんは、農機具販売の営業のため、様々な農家を訪れたそうです。営業をしていると、儲かっている農家の方に出会う機会もありました。日高さんは、「自分の家も田んぼを持っている。是非活かして農業をしたい」という思いに駆られ、退職し農業を目指すことになりました。

家に田んぼはあるものの農業についての知識や経験がなかったため、県農業大学校の研修科に入学することになりました。当時の研修科は、イチゴ、トマト、ナス、キクの4品目から選択して実習をしていました。地域の農業振興品目であることと「イチゴは低い姿勢の作業だから、トマトの方がいいかな」という思いでトマト栽培を選択したそうです。

《これまでの過程》

2年目の大失敗をバネにして

日高さんは、研修科を卒業後、岡垣町の空きハウスを紹介してもらい、無事にトマト栽培を始めました。毎日仕事に追われていたという1年目を終え、2年目のこと、トマトの病気が重なり、大きな失敗をしたそうです。「その時、県南のトマト農家へ視察に行きました。そこは、高齢のご夫婦が経営をしていましたが、単収21tの出荷実績がありました。それを見て、体力的に若い自分の方が有利なはず、だから自分も必ずやれるはずと思いました。」と、その後、3作目から19t、4作目の今年も同程度の出荷実績を収め、目標へ近づいています。

日高さんが所属しているJA北九トマト部会は、定植後に、ほ場巡回を行うなど、部会員同士での情報交換が盛んな組織です。部会組織に所属することは、わからないことを聴いたり見たりする機会に恵まれるため、新規就農をする農業者にとっては、サポートになります。



プロフィール

- 家族構成／母、本人、妻、子ども4人
- 前職／農機具販売
- 営農年数／約4年
- 耕作(経営)面積／1.3ha
- 販路／JA共販

「あと、情報が大事なので、トマトについては、携帯やパソコンを使って調べています。」と、ひとつひとつの言葉から、とても勉強熱心なことが伝わります。

《これからの展望》

新しくハウスを建設

2年目の失敗はあったものの、出荷実績が上がっているという実感があつたことと、ほ場まで少し遠いのでガソリン代など費用がかかると感じ始め、「いつかは自分のハウスを建てたかった」という思いを実現するため、現在、自宅から歩いて5分のところに20aのハウスを建設しています。

「これからも収量の向上を目指していきます。」と、話す日高さんは、トマト栽培の職人さんというイメージにぴったりです。



Good👍 成功のためのポイント

とにかく根性。自分で“どうにかせないかん”という意気込みがないとできん。“どうにかなる”じゃないですよ。